

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	姫島こども園		
○保護者評価実施期間	令和8年1月26日		～ 令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2026年2月16日		～ 2026年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども、利用児主体の考えのもと、保護者の相談に力を入れており、定期的なグループ相談や個別相談、子育てセミナー、親子通園時の担任との会話で、保護者の悩みに丁寧に寄り添っている。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者のニーズに合わせた相談やセミナーのテーマ選び 毎月、個別相談の有無をアンケートを配布しての確認 	<ul style="list-style-type: none"> セミナー等のテーマが同じと指摘をいただいたので、内容を工夫したい。
2	子どもの発達や育ちについて、目に見える能力面だけでなく、子どもの心(意思、感情、情緒の安定)にも注目し、子どもを取り巻く家族や園生活等の環境面にも注目して支援している。(家族関係やきょうだい関係の調整、延長支援、出産時支援等)。	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画を作成する前に、保護者と面談し、子どもの成長や課題について丁寧に振り返りを行っている。 家族のニーズを細やかに聞きとって対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、子どもの能力面だけでなく、家族が前向きに子育てに臨めるよう、人間関係・知情意の全体に着目した支援を行う。
3	週末にファミリーデー等の企画を立て、子どもの興味に合わせた活動を行った。「家族で楽しめる」と好評だった。また、「餅つき」は初めて食べることができた子どもが数人いるなど、家族で楽しめたと好評だった。	<ul style="list-style-type: none"> 家族間でのつながりがうまれる取り組み 懇親会や父親のみの相談会など話せる場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭によっては、こういった企画で懇親会の参加を恥ずかしくて渋る家庭があるので、参加しやすい取り組みをしたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の老朽化もあるが、あちこちで建付けが悪くなっている。また、建物が広く掃除の手が足りない場合がある。	<ul style="list-style-type: none"> 建物の老朽化 職員の体制上、掃除の時間がとりにくい 大型マット等の清掃しにくい遊具が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 安全確保のための定期的な点検、補修 玩具の清潔で適切な管理 園内の細やかな清掃
2	連絡手段の幅が狭く、地域の学校や保育園のようなSNSがまだ整備されていない。通園バスの遅延や避難訓練時の伝達にラインやメールでの一斉連絡ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ICT化の不足 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の通信手段の検討 新しいツールの確保
3	激しい表現の子どもに職員の注意が向きがちで、職員体制の手薄さの指摘があった。	<ul style="list-style-type: none"> 職員の休職などで、人手に余裕がない 	<ul style="list-style-type: none"> ケース討議、クラス討議において、集団における一人ひとりの子どもに対する配慮、子ども同士の関係作りの橋渡しの仕方等を検討する 人材確保に努める